

授業計画（シラバス）

■科 目	微生物学・口腔微生物学			■講師名	田村 宗明
I 部 1 学年	中・後期	20 コマ (1 コマ 90 分授業)	総時間 40 時間	講義 2 単位	
<p>■学修概要： 微生物総論ではその種類と特徴および病原性を学び感染症を理解する。その一方、生体の感染防御機序の基礎である免疫を学び、感染症発症の背景や常在細菌と宿主との共生関係の重要性を理解する。口腔微生物学では、口腔微生物の種類と特徴を学び、口腔の二大疾患う蝕と歯周病を中心にさまざまな口腔感染症を学ぶ。さらに、口腔疾患を誘因とする全身疾患を学びその背景を理解する。実習において、臨床上重要な手指消毒の実際を体験しその意義を理解する。</p>					
<p>■授業目的、到達目標： 一般病原性微生物の種類と特徴、病原因子および関連する感染症について学びその発症機序が説明できる。我々を感染症から守ってくれている免疫の種類、特徴および機序について説明できる。口腔細菌の種類と特徴および口腔の二大疾患・う蝕と歯周病を中心にさまざまな口腔感染症を学びその発症機序が説明できる。口腔感染症を誘因とする全身疾患とその発症機序および高齢者に特有の口腔感染症について説明できる。これらの知識を基に、口腔医療従事者として口腔感染症および全身疾患の予防法と専門的口腔ケアの重要性を理解するとともに、今後の歯科医療において重要となる医科歯科連携環境下における歯科医療の役割、衛生士の役割とは何かを自覚する。</p>					
<p>■授業方法 講義および実習</p>					
<p>■教科書（書籍名・出版社） 歯科衛生学シリーズ／微生物学 医歯薬出版 人は口から老い、口で逝く 日本プランニングセンター出版</p>					
<p>■成績評価・講義上の注意 定期試験（60%）、平常試験（30%）、および受講態度（10%）により総合的に評価する。</p>					
<p>■実務経験 これまで 30 年間以上にわたり日本大学歯学部において口腔微生物と免疫学に関する研究と教育を行ってきた。また、日本大学歯学部附属歯科衛生士学校で口腔微生物と免疫学の、本校では歯科英語の講義経験を有する。これらを通して歯科衛生士の立場からう蝕と歯周病をはじめとする口腔疾患の微生物要因ならびに免疫学について、本教科で学ぶ内容がいかに歯科臨床の現場で活かされるかを感じ取れる場を提供したいと考えている。</p>					
<p>■授業計画（講義の流れ）</p>					
1	ガイダンス、微生物学の歴史と世界、感染と発症（4/12）				
2	微生物学総論Ⅰ：構造、代謝、培養法（4/19）				
3	微生物学総論Ⅱ：感染と発症、感染経路（4/26）				
4	微生物学各論Ⅰ：グラム陽性の球菌と桿菌（5/10）				
5	微生物学各論Ⅱ：グラム陰性の球菌と桿菌（5/17）				
6	微生物学各論Ⅲ：クラミジア、マイコプラズマ、ウイルス、真菌（5/24）				
7	免疫学総論Ⅰ：免疫について、自然免疫（5/31）				
8	免疫学総論Ⅱ：獲得免疫（6/7）				
9	微生物学実習：手指の消毒（6/14）				
10	平常試験、解答解説（6/21）				
11	免疫学総論Ⅲ：アレルギー、ワクチン（6/28）				
12	口腔微生物学の歴史と世界（7/5）				
13	口腔微生物総論Ⅰ：グラム陽性の球菌と桿菌（7/12）				
14	口腔微生物総論Ⅱ：グラム陰性の球菌と桿菌、真菌（7/19）				
15	口腔免疫、デンタルプラーク（10/4）				

授業計画（シラバス）

16	う蝕：う蝕原性菌とその特徴（10/11）
17	歯周病：歯周病原菌とその特徴（10/18）
18	口腔と全身疾患（10/25）
19	滅菌と消毒，化学療法（11/1）
20	定期試験、解答解説